

平成 26 年度 村上市生活科部会 活動報告

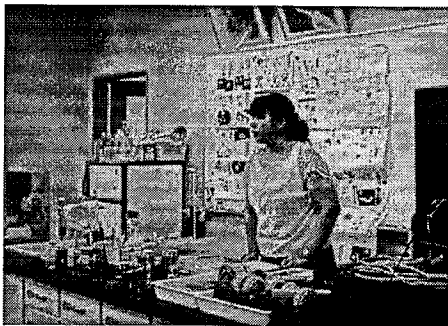
部長 倉松 志保子

1 研究主題

子どもが楽しんで活動する授業の工夫

2 研究の概要

4月30日(水) 代表部員会 部長選出 計画立案 会場:保内小学校
5月9日(金) 第1回生活科部会 計画確認 会場:総合文化会館
8月9日(水) 第2回生活科部会 理科センター研修会への参加
「うごくおもちゃをつくろう」 岩船小 小野澄江教諭
11月12日(水) 第3回生活科部会 実践発表会 会場:生涯学習推進センター



3 研究の実際

(1) 理科センター 単元別研修会 2年 「うごくおもちゃをつくろう」

① 研修内容

身近にあるものを使って、遊びに使うものを工夫して作る「うごくおもちゃをつくろう」の授業実践が報告された。製作過程での工夫や友だちとのかかわりを引き出すために、「①豊富な材料(大きさ、長さ、重さを変える)を準備する。②作ることと遊ぶことを一体化する。③『パワーアップカード』を工夫し、試行錯誤や繰り返す活動を設定する。④児童の多様性を生かす。」の4点が指導計画に位置づけられていた。

② 実習

参加者全員で動くおもちゃを製作し、完成したものを実際に動かした。

(2) 実践発表会

① 研修内容

当日は、各自が持ち寄ったレポートをもとに実践発表をした。祖父母や地域の方と共に野菜を育てた実践、収穫した野菜を使ったサラダパーティー、木の葉や木の実を使ったおもちゃ作りなどがあった。1年生の「ともだちいっぱい」の実践では、国語の学習と関連させ、2年生と自己紹介をし合う活動が紹介された。さらに、「1年生を迎える会」へ関連させたことで、児童が相手意識や目的意識をもって発表でき、回を重ねるごとに上達し、自信をもって発表できたことが成果として報告された。

4 成果(○)と課題(▲)

- 単元別研修会では、児童が試行錯誤し、友だちとのかかわりながら取り組むおもちゃ作りの工夫について学び、今後の指導計画作成や実践する際の参考となった。
- 実習では、材料の条件を変えることによって、おもちゃの動きがどのように変わるのかを実際に確かめることができた。
- 実践発表会では、お互いの実践について意見交換をし、新たなアイデアを紹介し合うことができた。今後の実践に生かしていきたい。
- ▲ 学校行事等で部員全員が集まることが難しく、日程について調整していきたい。
- ▲ 子どもが楽しんで活動するだけでなく、中学年以降の学習を視野に入れながら、学習活動を充実させていくことも必要だという意見も出された。